
アンダンテ

相葉広果

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アンダンテ

【Nコード】

N1533C

【作者名】

相葉広果

【あらすじ】

深まるばかりの思い出、思い出したくない記憶、忘れてしまったこと。君は知っていましたか？気付いていましたか？

時計回りの沈黙を破る土砂降りに

あの日の事を思い出す

手を振る君の細い腕が懐かしくて目頭が熱くなった

……知らなくてもいいよ 言わないつもりだから

戻りたい 戻れない ごめんなさい

忘れない 忘れられない ごめんなさい

些細な挨拶 気紛れな目線

振り絞った勇気の価値

君が遠ざかってからやっと気付きました

同じ夢 肩を並べて2人歩いたアンダンテ

どれだけ遅いペースでも

隣に君が居れば何も怖くは無かった

知らない振りして通り過ぎた景色のどこにヒントがあったの

君は知っているでしょう

君しか知らないでしょう

どうしての景色とヒントを知らない振りして通り過ぎたの

私は知っているでしょう

私しか知らないでしょう

心変わり等しないと誓ったのにどうして忘れてしまったの

君は知っているでしょう

君しか知らないでしょう

どうしてあの誓いを皮切りにこんなに溺れてしまったの
私は知っているでしょう
私しか知らないでしょう

ねえ お互い忘れてしまったでしょう

白く曇る夏の窓

君に会いたい 会えない

これ以上の苦痛があるなら教えてよ
嘲るように笑ってあげるから

大切なものを我慢して君が手に入るなら
私は君を我慢しなければいけないのかな

ゆっくりゆっくり歩いていこう

隣に君がいなくとも

振り返る甘い匂いが遠ざかってしまっても

いつかどこかで堰を切ったように溢れ出す思い出があるでしょう
そんな時はもう一度手を繋いで歩き出そう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1533c/>

アンダンテ

2010年10月11日18時59分発行